

大阪を生きる 12人の物語 第10回

ホスト 高島幸次

ゲスト 釈 徹宗



「人」を通すことで見えてくる大阪の文化的魅力を探る対談連載『大阪を生きる12人の物語』。第十回のゲストは、宗教家の釈徹宗さん。ホストはお馴染み、歴史学者の高島幸次さんです。

釈さんって、どんな人？

高島 釈さんはとにかく活動の幅が広い方なので、読者のみなさんにどうご紹介しようか悩むんですが、釈さんの肩書というところ？

釈 僧侶と答えるのがいいのか、ちょっと迷います。僧侶は肩書と言えるかどうか。そうなるかと住職でしょうか。

高島 今日お話をうかがっている「練心庵」は、釈さんが住職を務める浄土真宗のお寺・如来寺の寺子屋みたいな場所なんですよ。

釈 そうですね。お寺はもともと地域コミュニティの中にあってお世話役のような存在として機能してきたんですが、いまはコミュニティそのものが変化してい

ますから、地域以外の人にもお寺を開いていきたいと考えているんです。ただ、如来寺周辺にはまだ昔ながらの村のコミュニティが残っていて、いきなりお寺を開いてしまうと、長年に渡ってお寺を大事にしてきたムードが壊れてしまう恐れがある。それは忍びないの

で、開く場は別につくったんです。
高島 「練心庵」では主に、どんな活動をされているんですか？

釈 一階では、宗教学やジェンダー問題など、さまざまなテーマの講座やワークショップのほか、落語会や浪曲会、介護の講習会やお説教を聞く会なんかもしています。僕は常々、町の文化拠点はいっぱいあった方がいいと思っているので、ここでもいろいろなことをやるようにしてあります。二階は「NPOそーね」の拠点で、精神障害や発達障害の人たちが集まって「当事者研究」（生きづらさや困りごとを、大切な苦勞と捉え、研究することで、自らを生かす術を模索するプログラム）をやったりしています。

高島 宗教学の講座ってというのは、やっぱり釈さんが講師をされているんですか？

釈 はい。普段暮らしている中で、宗教のことを学べ

る場って本当に少ないですよ。でも、これだけグローバル化が進んだら、教室や職場にいろんな国の人、いろんな宗教の人がいるのはもはや当たり前前の光景ですし、しばしば話題になるカルト宗教の問題もある。ですから、宗教についてちゃんと知っていく必要があると思っ

ています。
高島 介護の講習会もされているって話ですけど、如来寺の近くで「むつみ庵」というグループホームも運営されているんですよ。

釈 ええ、もう二十年以上運営しています。「むつみ庵」の介護スタッフがここで講習会をすることもあります。

高島 一緒に働くスタッフから出たアイデアを実際にやってみるって、いいですね。

釈 イメージは江戸時代の「心学塾」（思想家・石田梅岩が創始した庶民のための実践的徳徳「石門心学」を教える場所）みたいな感じですよ。ホントとかどうか知りませんが、心学塾って教える側が好きで教えてたらしいです。ここも、もう好きで好きで教えてますって人のもとへ、興味のある人が集まる場にできたらええなあと思っ